コンクールF



weltec



確かな品質の
クロルヘキシジン洗口液

コンクールF

内　容　量100mL(約360～700回分)
参考患者価格 1,100円(税込)　医薬部外品

う蝕・歯周病・口臭予防

① 長時間の殺菌持続力

殺菌成分グルコン酸クロルヘキシジン0.05%配合

② バイオフィルムの形成を抑制

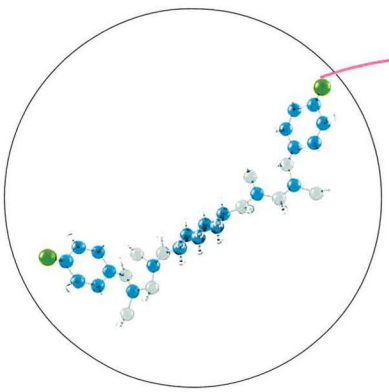
う蝕・歯周病菌由来のバイオフィルム形成の阻害効果を確認

③ 炎症抑制

抗炎症成分グリチルリチン酸アンモニウム配合

＜主な配合成分＞
薬用成分 / グルコン酸クロルヘキシジン、グリチルリチン酸アンモニウム
矯 味 剤 / ℓ-メントール、緑茶抽出液
※コンクール Fはフッ素を配合しておりません。

① 長時間の殺菌持続力



クロルヘキシジン(CHG)

CHGは口腔細菌に直接作用するだけでなく、
歯や口腔粘膜に吸着し、徐々に放出しながら、
持続的な殺菌効果を及ぼします。
最大12時間まで細菌増殖を抑制することが報告されています。
この長時間の持続作用がCHGの最大の特長です。



歯や粘膜に吸着する



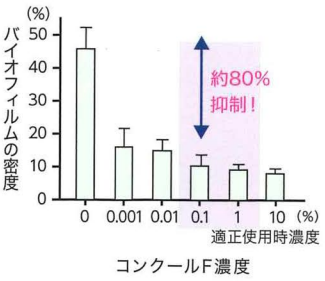
徐々に放出する

② バイオフィルムの形成を抑制

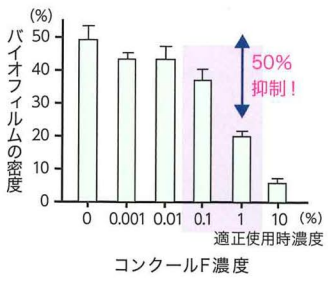
CHGには殺菌効果だけでなく、バイオフィルムの形成を抑制する効果も有しています。コンクールFの適正濃度使用時においても、う蝕原性細菌のバイオフィルムにおいては約80%形成抑制し、歯周病原性細菌のバイオフィルムにおいては約50%形成抑制しました。

ただし、バイオフィルムの形成抑制効果は、「ブラッシング要らず」にするわけではありません。ブラッシング時にバイオフィルムの除去を容易にする作用をもたらします。

う蝕菌由来の
バイオフィルムに対する形成抑制効果



歯周病菌由来の
バイオフィルムに対する形成抑制効果



ほんの少しの効果だけど、毎日使えば有用なバイオフィルム形成抑制効果のイメージ

■バイオフィルム形成抑制が作用しないとき



剥がれにくい

■バイオフィルム形成抑制が作用するとき



コンクールFが吸着

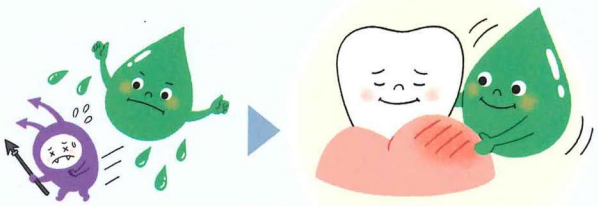
抑制するけれど
結局、ついてしまう

バイオフィルムが
剥がれやすい！

③ 炎症抑制

コンクールFは、炎症抑制効果にも定評があります。原因となる細菌をCHGで殺菌し、炎症部位にグリチルリチン酸アンモニウムが作用し鎮静化することで、歯周組織の安定化に導きます。

2つの効果で歯周組織の回復を図る！！



CHGの殺菌効果

グリチルリチン酸アンモニウムの
炎症抑制効果

コンクールFに含まれる
グルコン酸クロルヘキシジン（CHG）の作用機序について



殺菌成分の分類

洗口液に使用される殺菌成分はイオン性の殺菌成分と非イオン性の殺菌成分があります。

殺菌成分

イオン性

グルコン酸クロルヘキシジン
セチルピリジニウム塩化物
ベンゼトニウム塩化物
ベンザルコニウム塩化物
ラウロイルサルコシンナトリウム

非イオン性

チモール
イソプロピルメチルフェノール
トリクロサン
ポビドンヨード

特徴

イオン性

その1

細菌だけでなく歯面、粘膜、舌、ペリクルに吸着



その2

表面にバリアを張って、細菌の付着を抑制
しつつ、浮遊している細菌を殺菌



口腔内がきれいになったタイミングでの洗口に
適しているので、
★ブラッシング後　★プロケア後
の使用が効果的

非イオン性

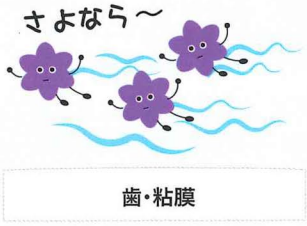
その1

バイオフィルム内部まで浸透するが、
30秒程度の洗口では奥まで届かない



その2

歯の表面への付着は弱い

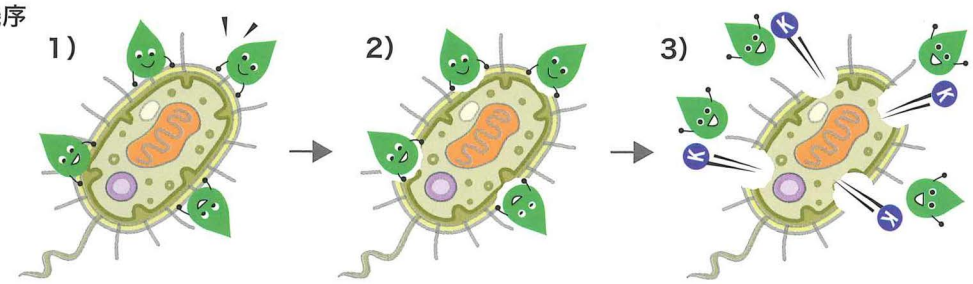


歯が磨けない環境での使用に
適している成分なので、
★外出時　★災害時
の応急的な使用が効果的

グルコン酸クロルヘキシジンの静菌作用

コンクールFに含まれるグルコン酸クロルヘキシジン（以下CHG）は以下のステップを経て、静菌的に作用（細菌が増えるのを抑制）します。

作用機序



1）CHGは、陰イオン性を示す細菌の表層に吸着し、細胞壁に傷をつける。
2）内膜のリン脂質に結合し、細胞膜の透過性が亢進する。
3）カリウムイオンのような低分子成分の漏出を引き起こす（細菌の内容物が流れ出す）
膜結合酵素を阻害する（エネルギーの産出を阻害）

グルコン酸クロルヘキシジンの特徴

①長時間の吸着効果

CHGの最大の特徴は、細菌だけでなく、歯の表面、粘膜、舌など、口腔内全体に吸着し、とどまることです。他の殺菌成分に比べ、特に口腔内に長くとどまり、**長時間（7〜12時間程度）静菌作用を得ることができます。**
日本国内の洗口液で幅広く使われている殺菌成分CPC（セチルピリジニウム塩化物）は3時間程度なので、CHGは口腔内保持時間が長いことがわかります。



②バイオフィルムの形成抑制



CHGは静菌作用を発揮するだけでなく、細菌の付着も抑制するので**バイオフィルム形成を阻害します。**
またコンクールFは、歯周病菌由来のバイオフィルムだけでなく、う蝕菌由来のバイオフィルム形成も阻害することがわかっています。

殺菌と静菌のちがい

静菌作用：分裂増殖中の菌の発育速度を抑える作用
殺菌作用：分裂増殖中の菌を殺す作用

殺菌性の薬剤は細菌を死滅させます。静菌性の薬剤は体内で細菌の増殖を遅延または阻止します。これらの定義は絶対的なものではなく，静菌性の薬剤が一部の感受性菌種を死滅させる場合もあれば，殺菌性の薬剤が一部の感受性菌種の増殖を阻止するにとどまる場合もあります。静菌作用とは感染菌に対して病原性をしずめる働きを示します。数回しずめているうちにやがて感染性が衰えることで，有効性を示します。

参照：MSDマニュアル（抗菌薬の概要）
治療薬マニュアル2004

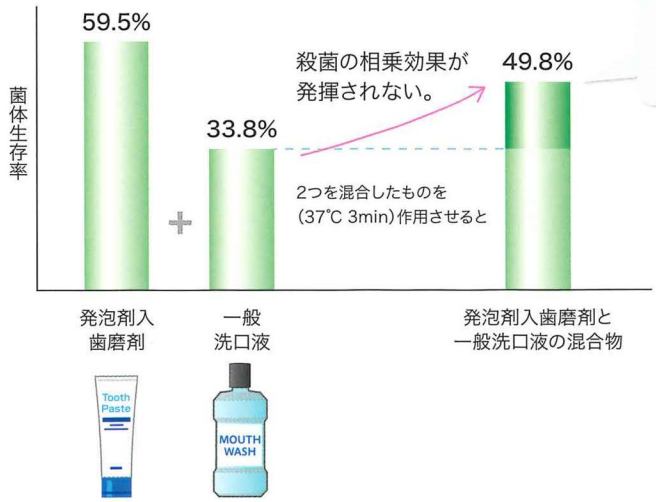
監修：新潟大学大学院医歯学総合研究科　口腔生命科学専攻口腔健康科学講座
う蝕学分野　准教授　竹中彰治

発泡剤（ラウリル硫酸ナトリウム）に要注意！！

歯磨剤や洗口液に配合される殺菌成分の効果を減弱させる作用があります。

試験方法	*Streptococcus mutans* (Sm)：う蝕菌のバイオフィルムに3倍希釈に調整した各試料を37℃で3分間作用させ、生存菌体数を測定した。 ※口腔内で唾液により薄まることを想定し、最終試料濃度が3倍希釈となるよう調製した。

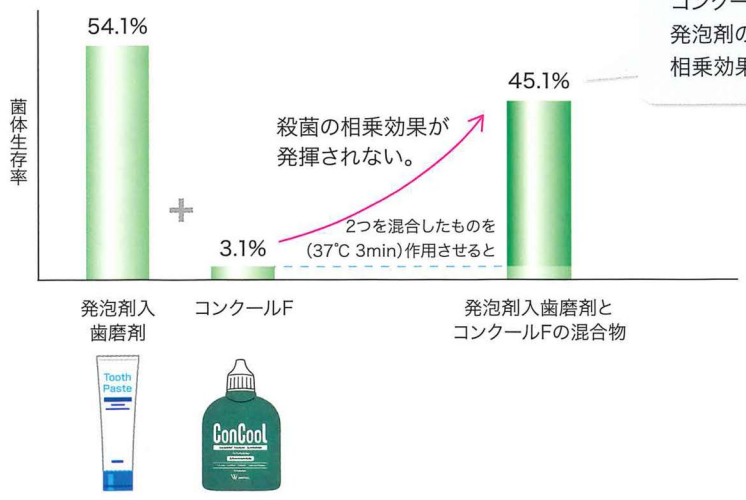
発泡剤を含む歯磨剤と一般洗口液の検証



歯磨剤と洗口液を併用する場合は、殺菌の相乗効果を期待するが、この検証結果では、発泡剤による効果の減弱が考えられる。



比較対象 「発泡剤を含む歯磨剤」と「コンクールF」の検証



コンクールFも他の洗口液と同様に発泡剤の影響を受け、殺菌効果の相乗効果が得られなかった。



（当社調べ）

発泡剤（ラウリル硫酸ナトリウム）は、クロルヘキシジン・塩化セチルピリジニウム・塩化ベンゼトニウムなど、洗口液に配合されている多くの殺菌成分の効果を減弱させると言われています。

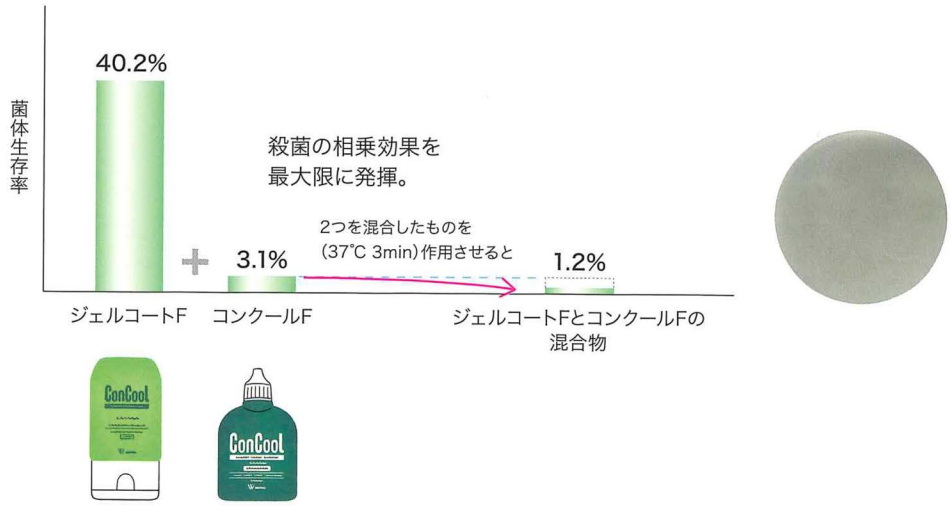
だから

洗口液を用いてプラークコントロールの相乗効果を期待するならば
発泡剤無配合の歯磨剤（ジェルコートF）がおすすめ！！

ジェルコートF／コンクールFは殺菌効果を引き出す設計

発泡剤無配合の「ジェルコートF」とクロルヘキシジン洗口液の「コンクールF」は、効果を減弱させることなく相乗効果が得られる設計なので、コンクールFをお使いの方にはジェルコートFの併用がおすすめです。

「ジェルコートF」と「コンクールF」の検証



POINT

発泡剤が殺菌成分の効果を減弱することは、ConCoolシリーズ以外においても起こります。市販の泡立つ歯磨剤や何気なく洗口液を使っている患者さんには、発泡剤が引き起こすリスクをお伝えすることが大切です。

洗口液の目的は「殺菌成分などの薬用成分を口腔内に留めること」です。これを第一に考えたときに洗口液で留意するポイントは

①（薬用効果の減弱を防ぐため）薬用成分の拮抗リスクを除去すること
②（薬用成分の流出を防ぐため）洗口液使用後は水うがいをしないこと
③（薬用成分の流出を防ぐため）飲食は極力控えること

となります。歯磨剤も洗口液も「なんとなく使っている」がほとんど。
予防用品を使う目的を理解し、それに対する行動を考えることができるようになれば、より高次元のセルフケアが実現できるようになります。



weltec

ウエルテック株式会社　531-0072 大阪市北区豊崎3-19-3　www.weltecnet.co.jp　0120-17-8049